

活動レポート

～カンボジアサンブール保健センター 開院式参加ツアー～



崎元 美玖

●日時：平成30年2月9日(金)～2月12日(月)

●スケジュール

・2月9日(移動)

成田→バンコク、バンコク→シュムリアップへの移動

・2月10日(ツアー1日目)

プレアビヒア遺跡観光

・2月11日(ツアー2日目)

サンプル保健センター開院式・村訪問・NCPRレクチャー見学

・2月12日(ツアー3日目)

GRAPHIS小学校訪問・キリングフィールド・戦争博物館・帰国

●ツアーについて

・このツアーは、医師である葉田甲太さんがカンボジアに建てた病院の開院式に参加するためのツアーです。病院を建てる時に、クラウドファンディングで資金を募っていたので、その支援者の方や葉田さんが書いた本を出版する時にお世話になった方々、お医者さんなどいろいろな方々が参加していました。ツアーでは、カンボジアの観光や小学校訪問もしました。

●参加したきっかけ

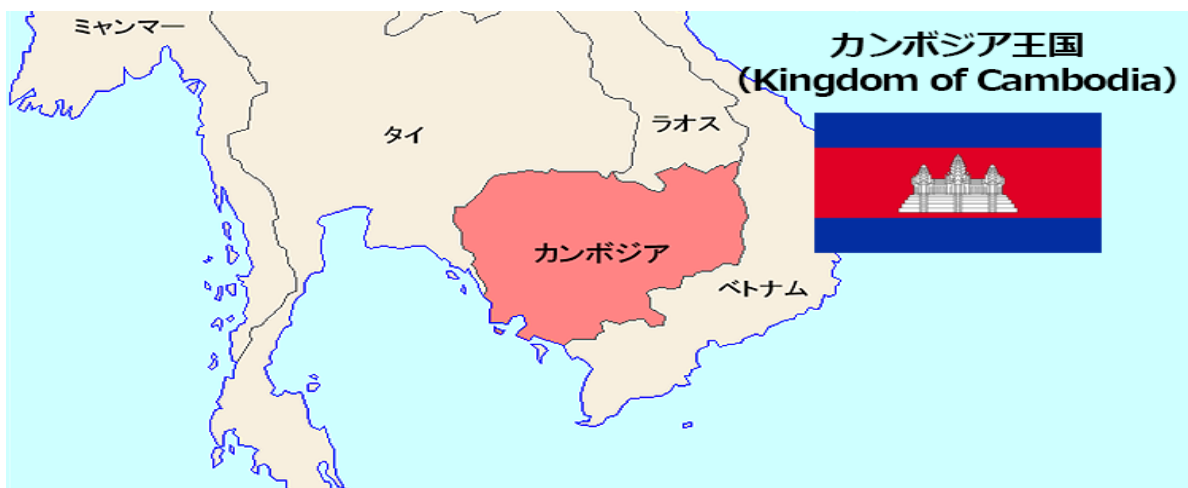
私は、小学校低学年の時から発展途上国に興味があり、葉田さんの本を読んだ時にとっても衝撃を受けました。そして、今回行ける機会があるなら、私もこのプロジェクトに協力したいと思い、私が通っている高校に募金活動を提案して募金を行いました。このような形で、今回このツアーに参加していろいろな経験ができました。

●募金活動

先程述べたように、学校で募金活動を行いました。自分で何かを提案して活動をするのは初めてだったのでなかなかスムーズにできませんでした。でも、数人の仲間が協力してくれて同じクラスの8人のメンバーで活動をしました。最終的には、クラスみんなが手伝ってくれました。とても嬉しかったです。募金を行なった時期は学園祭やテストなどで忙しかったので、期間は3日間と限定して呼びかけも限られた時間で行い、3日間で83,625円も集まりました。活動をする中で、活動を反対する先生や、自分の思うようにできなくて、大変でしたが、色々学べて成長できたと思います。理解してくれた先生や仲間のおかげで活動できたので感謝しています。

※ここからは、ツアーの思い出（9日の移動を除いた）を述べます。その前に、カンボジアについて少しだけ紹介します。

●カンボジアの紹介



・ 東南アジアのインドシナ半島南部に位置しています。西はタイ、北はラオス、南はベトナムと国境を接しています。

- ・ 首都：プノンペン
- ・ 人口：1,557万人（2015年 WHO）
- ・ 国土面積：181,000km²（日本の約半分）
- ・ 言語：クメール語
- ・ 通貨：リエル（現地では米ドルを使用した）
- ・ 宗教：ほとんどが仏教
- ・ アンコールワットやプレアビヒア遺跡などが有名



★ツアー1日目

カンボジアとタイの国境にあるダンレク山地の上に位置しています。ヒンドゥー教寺院です。タイと領土をめぐる争いもありましたが、現在はカンボジアの領土です。世界文化遺産にも登録されています。プレアビヒア遺跡は、海拔625mで「天空の遺跡」とも呼ばれています。そこから見る景色は絶景でした。写真ではすばらしさは伝わりにくいですが神秘的でおすすめの場所です。



★ツアー2日目

①サンブール保健ついに開院式の日が来ました。実際にカンボジアに来て、開院式に参加できることはとてもすごいことだと思います。開院式ではカンボジアの州知事・保健省副大臣やたくさんの村人も参加していて、とても賑やかなセレモニーでした。

私は、式でスピーチをさせていただきました。私は高校生であまり力になれてなくてまだそういう立場ではありませんが、このような機会をいただき良い経験になりました。ありがとうございます。葉田さんのスピーチはとても感動しました。実際に病院が見られて、現地の方の輝いた笑顔も見られて、みなさんと嬉しさを共有できて開院式に参加できて本当に良かったです。z



②村訪問

保健センターから少し離れた小さい村に訪問しました。村では、子供がいるお母さんやお父さんから生活や家族の話などを聞きました。村訪問はこのツアーで1番衝撃的でした。なぜなら最初村を見たとき本当に人が住んでいるのかと思い、今までに見たことのない世界でびっくりしました。なかなか言葉で表現することは難しく、伝えにくいです。実際に話を聞いたとき1日5ドル稼ぐことができたらいということや、お金がなくて子供たちは小学校までしか通わせられないことなどを知りました。お母さんたちには将来子供はこういう風になってほしいという願いもあり、だけど自分たちには学校に通わせるのは厳しいということを書いて、とても心が痛かったです。私は、学校に行きたくなくても当たり前のように行けるので、自分が情けなく感じました。

また、子供が2歳くらいになったら子供を置いて夫婦で出稼ぎに行くということも書いていました。子供を置いてまで夫婦で仕事をしなきゃいけないくらい生活が厳しくて、子供を育てるために必死に頑張ろう思っていることが伝わって来ました。20歳ちょっと過ぎたくらいのとても若い夫婦でした。カンボジアでは職に就くことが難しく、タイの方が仕事をしやすいそうです。でも、村の方々は厳しい環境の中でも楽しそうに生き生きとしていました。とても幸せそうでした。子供達も沢山いてみんな可愛くて逆に私の方が元気をもらいました。

私は冒頭にも述べたように昔から国際協力に興味があって、いつか途上国の方のために何か力になることをしたいって思っていたのですが、実際に厳しい環境を目のあたりにして、そこで私には何ができるのだろって考えましたが、答えがなかなか見つからなくて、ずっと心がモヤモヤしていて、なぜか悔しかったです。国際協力って簡単にはできない、世界を変えることなんて簡単じゃないと強く実感しました。でも、私にもきっとできることはあると思うので、答えが見つかった時にはそれを行動に起こせたらいいなと思います。



③NCPRレクチャー見学

村訪問の後、小児科医の嶋岡先生を中心に4人のお医者さんで、現地の看護師さんや助産師さんにNCPRのレクチャーしていました。今回建てた、保健センターには医師はいないそうです。カンボジアには医師がとても少ないそうです。調べたところ、医師の数は人口約1500万人に対して3500人だそうです。だから、出産も看護師さんや助産師だけで行います。カンボジアに関わらず、赤ちゃんは生まれた直後、呼吸をしていない赤ちゃんは結構多いそうです。でも、その赤ちゃんは決まった処置をしてあげると呼吸をするようになります。NCPRはその1つです。

今回、NCPRをレクチャーすることで、今後の出産でたくさんの赤ちゃんが救えるそうです。そのためにはしっかりとしたレクチャーが必要です。嶋岡先生は、この日のためにレクチャー方法を考えたり、人形や道具を開発したりしてそれをそのままプレゼントしていました。現地の方は今後練習でき、これこそが持続可能な支援だと思いました。現地の方々は積極的に取り組んでいて、お互い教えあったりしていて、とても熱心でした。

また、4人の先生たちのレクチャーしている姿はとてもかっこよかったです。私は、将来医師になりたいという自分の気持ちがさらに強くなりました。そのために全力で勉強頑張ります。嶋岡先生は、前日に私たちにもNCPRをレクチャーしてくれました。まさか体験できると思わなかったのでとても嬉しかったです。



★ツアー3 日目

①GRAPHIS小学校訪問

葉田さんが大学生の時に建てた、学校に行きました。そこでは、私を含め一緒にいった友達と大学生の方の3人でイベントの計画を立て、手洗い指導とミニ運動会を行いました。私は手洗い指導と手洗いリレーを担当しましたが、手洗い指導はとても難しかったです。言葉だけで説明しても伝わらないので、ツアー参加者にも協力していただいてみんなで劇もしました。ぶつけ本番でしたが、みんな演技が上手で子供たちも笑ってくれていました。手洗いダンスもみんなでしました、1番レクチャーが難しかったです、最後にはみんなで踊りました。

イベントの準備はとても大変で当日は計画通りに進行できませんでしたが、子供たちがとっても楽しんでくれて、大成功だと思います。子供たちは人懐っこくて、明るくてとても笑顔で可愛かったです。子供が大好きな私にはパラダイスでした笑。



②キリングフィールド

キリングフィールドは、プノンペンとシュムリアップの2箇所にあります
が、今回はシュムリアップの方に行きました。カンボジア内戦時代に子供や女性、政治家や知識人までもが大量に虐殺された場所であり、その人たち魂を安置している寺院でもあります。実際に、箱の中に頭蓋骨などの骨がたくさんありました。また、キリングフィールドでガイドさんの話を聞いていた時、そこにいた小さな女の子が手を繋いできて1ドルをねだってきました。そこで、あげるべきかあげないべきかととても悩みました。手をつないできて悲しそうな顔をして何度もねだってきたらあげたくなりました。彼女のような子は他にも沢山いるので、その苦しい中で彼女も頑張っ乗り越えて欲しいと思いあげることができませんでした。発展途上国での支援は何が正解なのか分からないことが沢山あり、とても難しそうです。

③戦争博物館

戦争博物館には、内戦時代に実際に使用した戦車や鉄砲などの武器がたくさん展示されていました。戦時中の生々しい写真などもありました。カンボジアの歴史について、少ししかわからなかったのでとても勉強になりました。もっと知りたいと思いました。



〈感想〉

今回のツアーは短期間でしたが、とてもとても充実したツアーでした。参加者の方も、みんな個性的でいろんなお話しができました。出会えたことに感謝です。またどこかでお会いしたいです。カンボジアの歴史や、そこに住む方の暮らしなど様々なことを学びました。開院式に参加してスピーチをさせて頂く機会があったり、小学校でイベントを行ったりたくさんの経験もしました。

村では、1番の衝撃を受けモヤモヤして国際協力の難しさや自分の無力さなどに気づきました。でも、その後NCPRのレクチャー見学での先生たちの姿を見て、医師になりたい気持ちが再確認でき、やる気スイッチが入った気がしました。小学校訪問では、明るくてキラキラした笑顔のたくさんの子供たちと触れ合い、たくさんパワーをもらいました。

このように、今回色々なことを感じて帰国する途中やした頃は頭の中がグチャグチャでした。でも、日が経つことに気づくことが増えて自分の気持ちがやっと整理できました。私は、とても不器用で、自分の無力さとかで自分が嫌になることが多いですが、これからは今回の経験などを活かして、自分らしく夢に向かって突き進みたいです。



まとまりのないレポートですが、最後まで読んで頂きありがとうございました！

Thank you for reading.